



イーブイエー
ダイレクト年金 e-VA

新変額個人年金保険(無配当)
特別勘定グループ(GW)

月次運用実績レポート

2016年3月

| 特別勘定の名称 | 主な運用対象の投資信託 | 投資信託の運用会社 |
|----------------|---|----------------------------------|
| 日本株インデックス型(GW) | インデックスファンド225VA (適格機関投資家向け) | 日興アセットマネジメント株式会社 |
| 日本株アクティブ型(GW) | フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3 (適格機関投資家専用) | フィデリティ投信株式会社 |
| 海外株式型(GW) | ステート・ストリート外国株式 インデックス・ファンドVA1(適格機関投資家専用) | ステート・ストリート・グローバル ・アドバイザーズ株式会社 |
| 新興成長国株式型(GW) | JPM・BRICS5・ファンド (適格機関投資家転売制限付) | JPモルガン・アセット・マネジメント 株式会社 |
| 海外債券型(GW) | ピムコ・海外債券ファンド (適格機関投資家専用) | ピムコジャパン リミテッド |
| 日本債券型(GW) | MHAM物価連動国債ファンドVA (適格機関投資家専用) | みずほ投信投資顧問株式会社 |
| 海外リート型(GW) | ノムラ海外REIT インデックス ファンドVA(適格機関投資家専用) | 野村アセットマネジメント株式会社 |
| マネープール型(GW) | フィデリティ・マネー・プールVA (適格機関投資家専用) | フィデリティ投信株式会社 |

<引受保険会社>



アクサ生命保険株式会社

redefining / standards

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
TEL 0120-933-399
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

特別勘定名称

日本株インデックス型(GW)

運用方針

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、日経平均株価に連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

| | 1ヵ月 | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 設定来 |
|----------------|-------|---------|--------|---------|-------|
| 日本株インデックス型(GW) | 4.99% | ▲10.96% | ▲3.03% | ▲11.77% | 2.35% |

特別勘定資産内訳

| | 構成比(%) |
|---------|--------|
| 現預金・その他 | 4.5% |
| 投資信託 | 95.5% |
| 合計 | 100.0% |

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(06/09)を「100」として指数化したものです。

【参考】日本株インデックス型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

インデックスファンド225VA(適格機関投資家向け)

(運用会社:日興アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

| | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 3年 | 設定来 |
|-----------------|---------|--------|---------|--------|-------|
| インデックスファンド225VA | ▲11.31% | ▲2.87% | ▲11.43% | 12.01% | 5.59% |
| 日経平均株価(225種・東証) | ▲11.95% | ▲3.62% | ▲12.75% | 10.57% | 4.39% |
| 差異 | 0.64% | 0.75% | 1.32% | 1.44% | 1.20% |

<純資産総額>

| | |
|-------|---------|
| 純資産総額 | 63.63億円 |
|-------|---------|

※収益率は、1年以上の場合、年率ベースで、1年未満(3ヵ月間、6ヵ月間)は、年率換算していません。
 ※ファンド(分配金再投資)の収益率は、当ファンド決算時に分配金があった場合の分配金を再購入(再投資)し、算出しています。
 ※収益率・リスクともに月次の収益率より算出しています。設定日が月中の場合、設定日が属する月は含んでいません。

<株式組入上位10業種>

| 業種名 | ファンドのウェイト |
|----------|-----------|
| 1 電気機器 | 16.22% |
| 2 情報・通信業 | 11.35% |
| 3 小売業 | 11.08% |
| 4 化学 | 7.97% |
| 5 医薬品 | 7.82% |
| 6 輸送用機器 | 6.35% |
| 7 食料品 | 5.67% |
| 8 機械 | 4.73% |
| 9 サービス業 | 3.50% |
| 10 精密機器 | 3.43% |

※ファンドのウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

<株式組入上位10銘柄>

| 銘柄名 | ファンドのウェイト |
|---------------|-----------|
| 1 ファーストリテイリング | 8.34% |
| 2 KDDI | 4.18% |
| 3 ファナック | 4.05% |
| 4 ソフトバンクグループ | 3.73% |
| 5 京セラ | 2.30% |
| 6 ダイキン工業 | 1.95% |
| 7 セコム | 1.94% |
| 8 テルモ | 1.87% |
| 9 アステラス製薬 | 1.73% |
| 10 東京エレクトロン | 1.70% |

(組入銘柄数 225銘柄)

※ファンドのウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

<資産構成>

| | |
|--------|--------|
| 株式 | 98.97% |
| 一部上場 | 98.97% |
| 二部上場 | 0.00% |
| 地方単独 | 0.00% |
| ジャスダック | 0.00% |
| その他 | 0.00% |
| 株式先物 | 1.01% |
| 株式実質 | 99.98% |
| 現金その他 | 1.03% |

※当ファンドの実質の組入比率です。

<運用コメント>

3月の国内株式市場は、日経平均株価が前月末比プラス4.57%と上昇しました。原油価格の回復傾向を受けた関連銘柄の上昇や、市場予想を上回る内容の米国経済統計、中国における追加金融緩和策などが支援材料となり、国内株式市場は上昇して始まりました。その後は、原油価格の上昇の継続や、欧州中央銀行(ECB)による追加の金融緩和策などが株価の上昇要因となる一方、経済協力開発機構(OECD)の景気先行指数の低下などを背景とする世界経済の先行き不透明感、中国の市場予想を下回る内容の貿易統計などが下落要因となり、国内株式市場はもみ合いの推移となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

日本株アクティブ型(GW)

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることを目指します。

運用方針

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

| | 1ヵ月 | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 設定来 |
|---------------|-------|--------|-------|--------|--------|
| 日本株アクティブ型(GW) | 6.77% | ▲8.92% | 2.08% | ▲6.77% | ▲3.16% |

特別勘定資産内訳

| | 構成比(%) |
|---------|--------|
| 現預金・その他 | 4.3% |
| 投資信託 | 95.7% |
| 合計 | 100.0% |

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。

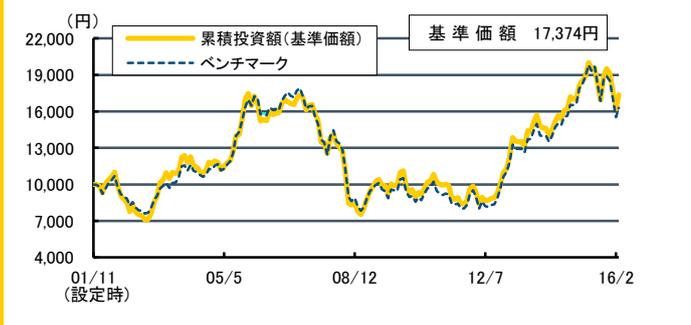
【参考】日本株アクティブ型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

- ①主として日本株を投資対象とします。
- ②個別企業分析により、成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行いません。

設定来の運用実績 (2016年3月31日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。※基準価額は運用管理費用控除後のものです。※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

<運用コメント>

当月の東京株式市場は、米景気や原油安への不安が和らぎ、4ヶ月ぶりに上昇しました。中国の追加金融緩和や米経済指標の改善、また原油など資源価格の底入れ感が強まったことなどを背景に、日本株は月初より大きく上昇、4日には日経平均株価が17,000円台を回復しました。しかしその後は上昇が持続せず、欧州中央銀行(ECB)による包括的な金融緩和策への反応も限定的となるなど、方向感を欠く展開となりました。サミットに向け、消費増税の延期など政府が総合経済対策を打ち出すなどの報道を受けて、政策期待が高まる場面もありましたが、決め手に欠け、日経平均株価は、為替や原油価格の動きを睨み17,000円を挟んで一進一退する動きに終始して、年度末を迎えました。月間の騰落率は、TOPIX(配当金込)が+4.83%、日経平均株価は+4.57%でした。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース)

(2016年2月29日現在)

<資産別組入状況>

| | |
|--------------|-------|
| 株式 | 98.6% |
| 新株予約権証券(ワラト) | - |
| 投資信託・投資証券 | 0.3% |
| 現金・その他 | 1.1% |

<市場別組入状況>

| | |
|--------|-------|
| 東証1部 | 95.0% |
| 東証2部 | 1.6% |
| ジャスダック | 1.6% |
| その他市場 | 0.7% |

<組入上位5業種>

| | |
|--------|-------|
| 電気機器 | 15.6% |
| 機械 | 12.7% |
| 情報・通信業 | 7.7% |
| 化学 | 7.2% |
| 輸送用機器 | 6.6% |

(対純資産総額比率)

* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

* ファンドは短期資金の運用の一環として、委託会社が設定した「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」に投資する場合があります。これはあくまでも短期資金の運用であるため、組入上位10銘柄、市場別組入状況には含まず、資産としては「現金・その他」に分類いたしております。なお、未払金等の発生により、「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

| 商品概要 | |
|------|--------------------------|
| 形態 | 追加型投信/国内/株式 |
| 投資対象 | わが国の株式等 |
| 設定日 | 2001年11月29日 |
| 信託期間 | 原則無期限 |
| 決算日 | 原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日) |

| 累積リターン (2016年3月31日現在) | | | | | |
|-----------------------|-------|---------|--------|---------|--------|
| | 直近1ヶ月 | 3ヶ月 | 6ヶ月 | 1年 | 設定来 |
| ファンド | 7.17% | ▲9.14% | 2.54% | ▲6.22% | 73.74% |
| ベンチマーク | 4.83% | ▲12.04% | ▲3.39% | ▲10.82% | 62.81% |

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。※ベンチマーク:TOPIX(配当金込)

| 過去5期分の収益分配金(1万円当たり/税込) | |
|------------------------|----|
| 第10期(2011.11.30) | 0円 |
| 第11期(2012.11.30) | 0円 |
| 第12期(2013.12.02) | 0円 |
| 第13期(2014.12.01) | 0円 |
| 第14期(2015.11.30) | 0円 |

純資産総額 709.8 億円 (2016年3月31日現在)

| 組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2016年2月29日現在) | | | |
|--------------------------------------|------------|--------|------|
| 順位 | 銘柄 | 業種 | 比率 |
| 1 | ミスミグループ 本社 | 卸売業 | 4.2% |
| 2 | ソフトバンクグループ | 情報・通信業 | 3.8% |
| 3 | マキタ | 機械 | 3.7% |
| 4 | リンナイ | 金属製品 | 3.4% |
| 5 | 三浦工業 | 機械 | 2.7% |
| 6 | 東レ | 繊維製品 | 2.3% |
| 7 | キーエンス | 電気機器 | 1.9% |
| 8 | オリックス | その他金融業 | 1.8% |
| 9 | 横河電機 | 電気機器 | 1.8% |
| 10 | テイスコ | 機械 | 1.8% |

(組入銘柄数: 274) 上位10銘柄合計 27.3% (対純資産総額比率)

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

海外株式型(GW)

運用方針

日本を除く主要先進国企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、MSCI KOKUSAIインデックスに連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

| | 1か月 | 3か月 | 6か月 | 1年 | 設定来 |
|-----------|-------|--------|-------|---------|--------|
| 海外株式型(GW) | 5.30% | ▲7.77% | 0.16% | ▲11.03% | 22.90% |

特別勘定資産内訳

| | 構成比(%) |
|---------|--------|
| 現預金・その他 | 4.2% |
| 投資信託 | 95.8% |
| 合計 | 100.0% |

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(06/09)を「100」として指数化したものです。

【参考】海外株式型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

ステート・ストリート外国株式インデックス・ファンドVA1(適格機関投資家専用)

(運用会社:ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社)

<基準価額の騰落率>

| | 1か月 | 3か月 | 6か月 | 1年 | 設定来 |
|--------------------------------------|--------|--------|--------|---------|---------|
| ステート・ストリート 外国株式インデックス・ ファンドVA1 | 5.66% | ▲7.97% | 0.43% | ▲10.77% | 154.69% |
| MSCIコクサイ インデックス (円換算) | 5.83% | ▲7.50% | 1.35% | ▲9.34% | 195.46% |
| 差異 | ▲0.17% | ▲0.47% | ▲0.92% | ▲1.43% | ▲40.77% |

<総資産総額>

純資産総額 5,409百万円

<組入銘柄数>

銘柄数(マザーファンド) 1,331

<外国株式組入上位10銘柄>

| 順位 | 銘柄名 | 投資国名 | 業種名称 | 比率 |
|----|---------------------|------|------------------------|------|
| 1 | APPLE INC | アメリカ | テクノロジー・ハードウェアおよび機器 | 1.9% |
| 2 | MICROSOFT CORP | アメリカ | ソフトウェア・サービス | 1.3% |
| 3 | EXXON MOBIL CORP | アメリカ | エネルギー | 1.1% |
| 4 | JOHNSON & JOHNSON | アメリカ | 医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス | 1.0% |
| 5 | GENERAL ELECTRIC CO | アメリカ | 資本財 | 1.0% |
| 6 | FACEBOOK INC-A | アメリカ | ソフトウェア・サービス | 0.8% |
| 7 | AT & T INC | アメリカ | 電気通信サービス | 0.8% |
| 8 | NESTLE SA-REG | スイス | 食品・飲料・タバコ | 0.8% |
| 9 | AMAZON COM INC | アメリカ | 小売 | 0.8% |
| 10 | WELLS FARGO COMPANY | アメリカ | 銀行 | 0.7% |

※マザーファンド・ベース
※比率は対純資産で計算しています。

<運用コメント>

3月の外国株式市場は、好調な米国経済指標や原油価格の持ち直しを受けて年初以降の過度なリスク回避姿勢が和らぐ中、欧州の追加金融緩和策への期待感も相俟って中旬にかけて堅調に推移しましたが、その後は積極的な買い材料に乏しく上値の重たい展開となりました。米国株式市場は、製造業統計が市場予想を上回ったことから急伸びが始まると、その後も好調な雇用統計や原油高が支援材料となり7日まで5日続伸しました。8日には原油価格の急落を受けて反落しましたが、中旬に入ると欧州中央銀行(ECB)による追加景気刺激策を好感して上昇基調に転じました。また16日に米連邦公開市場委員会(FOMC)が利上げペースの減速を示唆したことや原油価格の反発などもその後の相場の支援材料となりました。下旬は、原油価格の下落を嫌気して一時反落しましたが、月末にかけてはイエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長が追加利上げに対して慎重な姿勢を示したことから再び反発しました。結局、ダウ平均は17,685.09(前月比+7.08%)、ナスダック総合指数は4,869.85(前月比+6.84%)、S&P500指数は2,059.74(前月比+6.60%)で終了しました。

欧州株式市場は、良好な米雇用統計などを材料に4日まで堅調に推移しましたが、その後は中国経済の失速による世界経済への悪影響が懸念され上旬は往って来いの展開となりました。中旬に入ると、ECBによる景気刺激策や原油高を好感して資源株や自動車株などが買われ反発しましたが、月央以降はユーロ高の進行を受けて輸出関連株などが売られボックス圏での動きが続きました。下旬には、軟調な原油価格や22日のブリュッセルでの爆弾テロに加え市場連休前の手控え感から24日まで下落基調となりましたが、月末にかけてはイエレンFRB議長の発言を受けて底堅く推移しました。英FT100指数は6,174.90(前月比+1.28%)、仏CAC40指数は4,385.06(前月比+0.72%)、独DAX指数は9,965.51(前月比+4.95%)で終えました。

アジア市場ではオーストラリア市場は原油高や良好なGDPを好感して月前半は上昇しましたが、その後反落しました。香港市場は中国景気不安や米早期利上げ懸念が後退し大幅上昇となりました。豪ASX200指数は5,082.79(前月比+4.14%)、香港ハンセン指数は20,776.70(前月比+8.71%)で終わりました。

外国為替市場は、原油価格が持ち直したことや世界的に堅調な経済指標が散見されたことを受けてリスク許容度が改善したことを背景に日本円は米ドルを除き、主要通貨全般に対して下落しました。米ドルは米早期利上げ期待が後退したことを受けて日本円に対して緩やかな下落となりました。円は対米ドルで月間0.83%上昇の112.68円となりました。

MSCIコクサイ指数パフォーマンスは前月比+5.83%となりました。

<信託財産構成比>

| 項目 | 国名 | 比率 | |
|-----------------|-----------|----------|-------|
| 外国株式 | [全体] | 93.1% | |
| | <北米> | 63.6% | |
| | | アメリカ | 60.1% |
| | | カナダ | 3.5% |
| | <アジア・太平洋> | 4.5% | |
| | | オーストラリア | 2.7% |
| | | 香港 | 1.3% |
| | | シンガポール | 0.5% |
| | | ニュージーランド | 0.1% |
| | <ヨーロッパ> | 24.7% | |
| | | イギリス | 7.4% |
| | | フランス | 3.8% |
| | | ドイツ | 3.5% |
| | | スイス | 3.4% |
| | | オランダ | 1.2% |
| | イタリア | 0.8% | |
| | スペイン | 1.2% | |
| | スウェーデン | 1.1% | |
| | フィンランド | 0.4% | |
| | ベルギー | 0.6% | |
| | アイルランド | 0.2% | |
| | デンマーク | 0.8% | |
| | ノルウェー | 0.2% | |
| | ポルトガル | 0.1% | |
| | オーストリア | 0.1% | |
| <アフリカ・中東> | 0.3% | | |
| | イスラエル | 0.3% | |
| その他(現金及び株価指数先物) | | 6.9% | |

※マザーファンド・ベース
※比率は対純資産で計算しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

新興成長国株式型(GW)

運用方針

新興成長国の企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

| | 1カ月 | 3カ月 | 6カ月 | 1年 | 設定来 |
|--------------|--------|-------|-------|---------|--------|
| 新興成長国株式型(GW) | 16.44% | 0.09% | 1.38% | ▲17.71% | 31.58% |

特別勘定資産内訳

| | 構成比(%) |
|---------|--------|
| 現預金・その他 | 4.3% |
| 投資信託 | 95.7% |
| 合計 | 100.0% |

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

【参考】 新興成長国株式型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

GIM・BRICS5・ファンド(適格機関投資家転売制限付)

(運用会社:JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

| | 1ヶ月 | 3カ月 | 6カ月 | 1年 | 設定来 |
|-----------------|-------|------|------|--------|-------|
| GIM・BRICS5・ファンド | 17.3% | 0.4% | 1.9% | ▲17.7% | 73.6% |

※騰落率については、基準価額に税引前分配金を再投資して計算しております。
 ※騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。
 ※ファンド設定日は2006年5月26日です。

<株式組入上位10銘柄>

(銘柄数 66銘柄)

| 順位 | 銘柄 | 国 | 業種 | 比率 |
|----|-------------------|-------|-------------|-------|
| 1 | ルクオイル(ADR) | ロシア | エネルギー | 4.06% |
| 2 | スベルバンク・オブ・ロシア | ロシア | 銀行 | 4.00% |
| 3 | 騰訊 | 中国 | ソフトウェア・サービス | 3.22% |
| 4 | ビッドヴェストグループ | 南アフリカ | 資本財 | 3.07% |
| 5 | MMCノリスクニツケル(ADR) | ロシア | 素材 | 3.07% |
| 6 | ファーストランド | 南アフリカ | 各種金融 | 2.99% |
| 7 | HDFC | インド | 銀行 | 2.92% |
| 8 | マグニト | ロシア | 食品・生活必需品小売り | 2.83% |
| 9 | ナスパーズ | 南アフリカ | メディア | 2.69% |
| 10 | イタウ・ユニバンコ・ホールディング | ブラジル | 銀行 | 2.50% |

※マザーファンド・ベース (2016年2月29日現在)
 ※組入上位10銘柄については、開示基準日がその他の情報と異なります。
 ※比率は対純資産で計算しています。
 ※国、業種については、MSCI分類に基づき分類していますが、委託会社の判断に基づき分類したものが一部含まれます。

<運用コメント>

市場概況

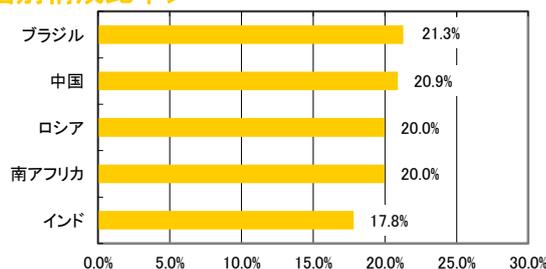
当月、BRICS5カ国を含む新興国株式市場は上昇しました。上旬は原油価格の上昇やECB(欧州中央銀行)による追加の金融緩和策が好感され上昇しました。その後も、FOMC(米連邦公開市場委員会)の結果を受けて米国の利上げペースが緩やかになるとの見方が広がり、米ドル安が進み、ドルへの資金還流による通貨安が懸念されていた新興国の株価上昇につながりました。下旬はイースター(復活祭)休暇を控え一旦利益を確定する動きが出やすい中、まちまちな動きとなりましたが、月間では上昇しました。このような市場環境の下、BRICS5カ国の国別では全ての国が上昇した中、特にブラジルの上昇が目立ちました。

運用状況

- ・当ファンドの月末基準価額は13,127円、前月末比+17.3%となりました。
- ・当月は、保有銘柄の株価上昇に加えて、投資通貨が対円で概ね上昇したことが基準価額を押し上げました。
- ・組入保有証券に対する国別の投資比率は、ブラジル、中国は20%を上回る比率となりました。一方でインド、南アフリカ、ロシアは20%を下回る比率となりました。

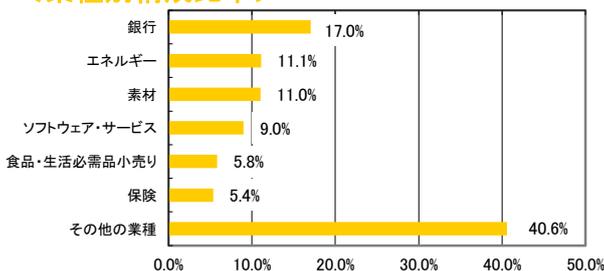
※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

<国別構成比率>



※マザーファンド・ベース
 ※比率は組入保有証券を100%として計算しております。
 ※国別については、MSCI分類に基づき分類していますが、委託会社の判断に基づき分類したものが一部含まれます。
 ※中国の構成比率にはMSCI分類における香港を含みます。

<業種別構成比率>



※マザーファンド・ベース
 ※比率は組入保有証券を100%として計算しております。
 ※業種については、MSCI24分類に基づき分類していますが、委託会社の判断に基づき分類したものが一部含まれます。

特別勘定名称

海外債券型(GW)

運用方針

日本を除く世界各国の公社債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に安定した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(09/02)を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

| | 1カ月 | 3カ月 | 6カ月 | 1年 | 設定来 |
|-----------|-------|--------|--------|--------|--------|
| 海外債券型(GW) | 1.54% | ▲1.96% | ▲3.22% | ▲5.03% | 34.30% |

特別勘定資産内訳

| | 構成比(%) |
|---------|--------|
| 現預金・その他 | 4.7% |
| 投資信託 | 95.3% |
| 合計 | 100.0% |

【参考】海外債券型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

ピムコ・海外債券ファンド(適格機関投資家専用)

(運用会社:ピムコジャパン リミテッド)

<基準価額の騰落率>

| | 1カ月 | 3カ月 | 6カ月 | 1年 | 設定来 |
|-----------------|-------|--------|--------|--------|--------|
| ピムコ 海外債券ファンド | 1.72% | ▲1.76% | ▲2.81% | ▲4.15% | 98.36% |
| ベンチマーク | 1.30% | ▲1.57% | ▲2.82% | ▲2.82% | 77.17% |
| 差異 | 0.42% | ▲0.19% | 0.01% | ▲1.33% | 21.19% |

※ベンチマークは、シティ世界国債インデックス(除く日本、為替ヘッジなし)90%、1ヶ月日本円Libor10%を合成したものです。

<ファンドの一般特性>

| | |
|-----------|--------|
| 平均クーポン | 2.41% |
| 平均直接利回り | 2.24% |
| 平均最終利回り | 2.01% |
| 平均デュレーション | 6.43年 |
| 平均償還期間 | 9.20年 |
| 平均格付け* | AA |
| 債券組入比率 | 99.17% |

※平均格付けとは、基準日時点で投資信託財産が保有している有価証券に係る信用格付を加重平均したものであり、当該投資信託受益証券に係る信用格付ではありません。

<国別構成比>

| 国名 | 組入比率 |
|---------|---------|
| アメリカ | 35.69% |
| ユーロ圏 | 40.71% |
| イギリス | 12.73% |
| カナダ | 1.96% |
| メキシコ | 3.50% |
| オーストラリア | 1.26% |
| 日本 | 0.79% |
| その他 | 3.36% |
| 合計 | 100.00% |

<格付構成比>

| 格付 | 組入比率 |
|-------|---------|
| AAA | 54.18% |
| AA | 14.74% |
| A | 9.56% |
| BBB | 12.81% |
| BB以下 | 0.01% |
| A1/P1 | 8.70% |
| A2/P2 | 0.00% |
| 合計 | 100.00% |

<種別別配分>

| セクター名 | 組入比率 |
|-----------------|---------|
| 国債、エージェンシー債 | 77.94% |
| モーゲージ債、アセットバック債 | 0.17% |
| 社債 | 21.06% |
| キャッシュ等* | 0.83% |
| 合計 | 100.00% |

※「キャッシュ等」にはCP等も含まれます。

<運用コメント>

<市場コメント>

米国債券相場は、2月雇用統計が市場予想を上回る結果となるなど国内の経済環境の改善が改めて確認され、早期の利上げが意識されたことがマイナス材料となり、下落しました。(2年債利回りは前月比0.05%低下、10年債利回りは0.03%上昇しました。)

欧州債券相場は、ECB(欧州中央銀行)が政策理事会後の会見で、更なる利下げに対し否定的な姿勢を示したことから、軟調な展開となりました。(2年債利回りは0.08%、10年債利回りは0.05%上昇しました。)英国債券相場は、BOE(イングランド銀行)がMPC(金融政策委員会)にて利上げに対し慎重な姿勢を確認したことはプラス材料になったものの、原油価格の反発などを背景に市場心理が改善し、グローバルに債券市場が軟調に推移したことを受けて、下落しました。(2年債利回りは前月比0.06%、10年債利回りは0.08%上昇しました。)

日本債券相場は、グローバルに債券市場が軟調に推移する中、日銀による追加緩和期待が後退したこともマイナス材料となり、下落しました。(2年債利回りは前月比0.05%、10年債利回りは0.03%上昇しました。)

<パフォーマンス>

先月のパフォーマンスはプラス1.72%となり、ベンチマークを0.42%上回りました。スペインなどの欧州周縁国債への投資や米国物価連動国債への投資を多めにしていたことがプラスに寄与しました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

日本債券型(GW)

運用方針

国内の物価連動債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に安定した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

| | 1ヵ月 | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 設定来 |
|-----------|-------|--------|--------|--------|-------|
| 日本債券型(GW) | 0.41% | ▲2.03% | ▲2.38% | ▲3.89% | 6.25% |

特別勘定資産内訳

| | 構成比(%) |
|---------|--------|
| 現預金・その他 | 4.8% |
| 投資信託 | 95.2% |
| 合計 | 100.0% |

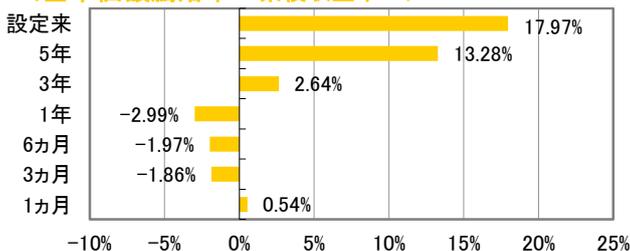
※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。

【参考】日本債券型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

MHAM物価連動国債ファンドVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:みずほ投信投資顧問株式会社)

<基準価額騰落率-累積収益率->



※累積収益は、ファンドの決算時に収益分配があった場合にその分配金(税引前)を再投資したものと算出。

※累積収益率は実際の投資家利回りとは異なります。

<資産構成比率>

| | |
|------------|-------|
| 国内債現物組入銘柄数 | 4銘柄 |
| 公社債の平均残存期間 | 7.68年 |

| | |
|-------|-------|
| 国内債現物 | 89.7% |
| 国内債先物 | 0.0% |
| その他資産 | 10.3% |

※その他資産は、100%から国内債現物・国内債先物の組入比率の合計を差し引いたものです。
※組入比率は、純資産総額に対する比率を表示しています。月末の設定・解約の影響により、一時的に100%を超える場合があります。

<組入上位5銘柄の組入比率>

| | 銘柄名 | 利率 | 償還日 | 比率 |
|---|--------------------|--------|------------|-------|
| 1 | 第17回利付国債(物価連動・10年) | 0.100% | 2023/09/10 | 61.6% |
| 2 | 第18回利付国債(物価連動・10年) | 0.100% | 2024/03/10 | 16.6% |
| 3 | 第19回利付国債(物価連動・10年) | 0.100% | 2024/09/10 | 9.0% |
| 4 | 第20回利付国債(物価連動・10年) | 0.100% | 2025/03/10 | 2.5% |
| 5 | | | | |

<公社債の残存期間別組入比率>

| 残存年数 | 比率 |
|-----------|-------|
| 1年未満 | 0.0% |
| 1年以上3年未満 | 0.0% |
| 3年以上7年未満 | 0.0% |
| 7年以上10年未満 | 89.7% |
| 10年以上 | 0.0% |

※組入上位5銘柄の組入比率、公社債の残存期間別組入比率は、純資産総額に対する比率を表示しています。

<運用コメント>

■先月の投資環境

3月の10年物価連動国債の価格は上昇しました。価格変動の主な要因は以下の通りです。

『既に起こった物価の変動要因』:3月に適用される全国消費者物価指数(生鮮食品を除く総合指数)は前月末対比下落しました(マイナス要因)。

『将来予想される物価の変動(期待インフレ率※)要因』:第20回償還の期待インフレ率は原油価格の反発などを受けて上昇しました(プラス要因)。

『金利の変動要因』:第20回償還とほぼ同残存年数の国債利回りは、高値警戒感から月末に小幅に上昇しました(マイナス要因)。

※物価連動国債の価格に織り込まれた将来予想される物価変動率です。各物価連動国債とほぼ同残存年数の国債との利回り差となります。

■先月の運用概況

主に将来予想される物価の変動要因がプラス寄与し、基準価額は前月末対比上昇しました。なお、当ファンドのマザーファンドでは第17回償還を一部売却し、4月の入札に備えて組入比率を引き下げました。

■今後の運用方針

当面、物価連動国債市場は上値の重い状況が続くと見込みます。為替が円高の水準で推移していることや、春闘での賃上げ水準が昨年と比べ鈍化したこと等から、目先の物価上昇期待は高まりにくい状況が継続すると想定します。一方で、日銀は2%の物価上昇を目指し、必要であれば今後も追加の金融緩和措置を導入することを表明しており、目標達成に向けた姿勢を維持しています。今後、原油価格などの国際商品市況が落ち着き、日銀の金融緩和効果が浸透すれば、徐々に物価上昇への期待が高まっていくものと見込みます。このような見通しに基づき、基本的には現在のポートフォリオを維持する方針です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

海外リート型(GW)

運用方針

日本を除く世界各国の上場不動産投信(REIT=Real Estate Investment Trust)を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円換算ベース)に連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

| | 1ヵ月 | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 設定来 |
|------------|-------|--------|-------|--------|--------|
| 海外リート型(GW) | 8.03% | ▲3.03% | 4.53% | ▲5.73% | 17.89% |

特別勘定資産内訳

| | 構成比(%) |
|---------|--------|
| 現預金・その他 | 4.3% |
| 投資信託 | 95.7% |
| 合計 | 100.0% |

【参考】海外リート型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

ノムラ海外REIT インデックス・ファンドVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:野村アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

| | 1ヵ月 | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 設定来 |
|----------------------------|------|-------|------|-------|-------|
| ノムラ海外REIT インデックス・ファンドVA | 8.5% | ▲2.9% | 5.2% | ▲5.1% | 44.4% |
| ベンチマーク | 8.7% | ▲2.6% | 5.8% | ▲4.2% | 55.5% |

※収益率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。
※ベンチマークである、S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円換算ベース)はS&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、ドルベース)を委託会社において円換算したものです。

「S&P先進国REIT指数(除く日本)」はスタンダード&プアーズファイナンシャル サービスズ エル エル シーの所有する登録商標であり、野村アセットマネジメントに対して利用許諾が与えられています。スタンダード&プアーズは本商品を推奨・支持・販売・促進等するものではなく、また本商品に対する投資適格性等に関しかなる意思表示等を行なうものではありません。

<資産別配分比率>

| 資産種別 | 純資産比 |
|-----------|-------|
| REIT(リート) | 97.7% |
| 先物 | 0.8% |
| その他の資産 | 2.3% |
| 合計(※) | - |

※先物の建て玉のある場合は、合計欄を表示していません。
※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

<実質通貨配分>

| 通貨 | 純資産比 |
|----------|-------|
| 日本・円 | 0.1% |
| 外貨計 | 99.9% |
| アメリカ・ドル | 71.8% |
| ユーロ | 7.0% |
| イギリス・ポンド | 5.9% |
| その他の外貨 | 15.2% |

・実質通貨配分は為替予約等を含めた実質的な比率をいいます。

<国・地域別配分>

| 国・地域 | 純資産比 |
|----------|-------|
| アメリカ | 71.6% |
| オーストラリア | 8.1% |
| イギリス | 5.8% |
| オランダ | 3.1% |
| シンガポール | 3.1% |
| その他の国・地域 | 9.2% |
| 合計(※) | - |

※先物の建て玉のある場合は、合計欄を表示していません。

<REIT 組入上位10銘柄>

| | 銘柄 | 国・地域 | 純資産比 |
|----|---------------------------|---------|------|
| 1 | SIMON PROPERTY GROUP INC | アメリカ | 5.9% |
| 2 | PUBLIC STORAGE | アメリカ | 3.7% |
| 3 | EQUITY RESIDENTIAL | アメリカ | 2.5% |
| 4 | UNIBAIL RODAMCO-NA | オランダ | 2.5% |
| 5 | AVALONBAY COMMUNITIES INC | アメリカ | 2.4% |
| 6 | WELLTOWER INC | アメリカ | 2.3% |
| 7 | PROLOGIS INC | アメリカ | 2.1% |
| 8 | VENTAS INC | アメリカ | 2.0% |
| 9 | BOSTON PROPERTIES | アメリカ | 1.8% |
| 10 | SCENTRE GROUP | オーストラリア | 1.7% |

※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。
※国・地域は原則発行国・地域で区分しております。

<市場コメント>

●米国において1月の建設支出(前月比)が市場予想を上回ったことや利上げペースが緩やかなものにとどまるとの観測が高まったこと、外国株式市場の上昇などを背景に、外国リート市場は米国を中心に上昇しました。FOMC(米連邦公開市場委員会)で利上げペースの減速が示唆されたことなどから米ドルは対円で下落(円高)しました。一方、ECB(欧州中央銀行)は追加緩和策を発表したものの、一段の利下げに慎重なドラギ総裁の発言などを受けて、ユーロは対円で上昇(円安)しました。(野村アセットマネジメント作成)

<純資産総額>

| | |
|-------|---------|
| 純資産総額 | 13.5 億円 |
|-------|---------|

<組入銘柄数>

| | |
|-------|--------|
| 組入銘柄数 | 317 銘柄 |
|-------|--------|

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

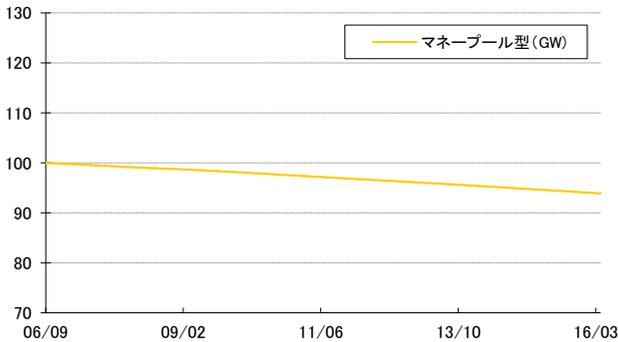
特別勘定名称

マネープール型(GW)

運用方針

他の特別勘定で運用している資金の一時退避を目的とし、国内の公社債および短期金融商品等を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、安定した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

| | 1カ月 | 3カ月 | 6カ月 | 1年 | 設定来 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| マネープール型(GW) | ▲0.06% | ▲0.19% | ▲0.38% | ▲0.76% | ▲6.10% |

特別勘定資産内訳

| | 構成比(%) |
|--------|--------|
| 現金・その他 | 11.9% |
| 投資信託 | 88.1% |
| 合計 | 100.0% |

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

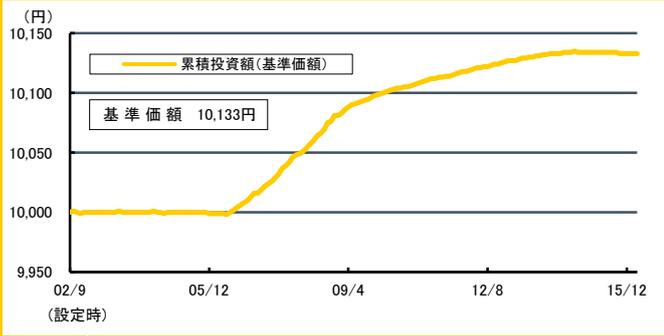
【参考】マネープール型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

フィデリティ・マネー・プールVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

◆本邦通貨表示の公社債等を主要な投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行ないます。

設定来の運用実績 (2016年3月31日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。
 ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。
 ※当ファンドは、ベンチマークを設定していません。
 ※基準価額は運用管理費用控除後のものです。
 ※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

純資産総額 97.4 億円 (2016年3月31日現在)

商品概要

| | |
|------|--------------------------|
| 形態 | 追加型投信/国内/債券 |
| 投資対象 | 本邦通貨表示の公社債等 |
| 設定日 | 2002年9月20日 |
| 信託期間 | 原則無期限 |
| 決算日 | 原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日) |

累積リターン (2016年3月31日現在)

| | 直近1ヶ月 | 3ヶ月 | 6ヶ月 | 1年 | 設定来 |
|------|-------|-------|--------|--------|-------|
| ファンド | 0.00% | 0.00% | ▲0.01% | ▲0.01% | 1.33% |

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

過去5期分の収益分配金(1万口当たり/税込)

| | |
|------------------|----|
| 第10期(2011.11.30) | 0円 |
| 第11期(2012.11.30) | 0円 |
| 第12期(2013.12.02) | 0円 |
| 第13期(2014.12.01) | 0円 |
| 第14期(2015.11.30) | 0円 |

ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース) (2016年2月29日現在)

<資産別組入状況>

| | |
|--------|--------|
| 債券 | - |
| CP | - |
| CD | - |
| 現金・その他 | 100.0% |

<組入資産格付内訳>

| | | |
|--------|---------|--------|
| 長期債券格付 | AAA/Aaa | - |
| | AA/Aa | - |
| | A | - |
| 短期債券格付 | A-1/P-1 | - |
| | A-2/P-2 | - |
| 現金・その他 | | 100.0% |

| | |
|--------|---|
| 平均残存日数 | - |
| 平均残存年数 | - |

(対純資産総額比率)

格付は、S&P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社の格付を優先して採用しています。(「プラス/マイナス」の符号は省略しています。)なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2016年2月29日現在)

| | 銘柄 | 種類 | 格付 | 比率 |
|----|----|----|----|----|
| 1 | - | - | - | - |
| 2 | - | - | - | - |
| 3 | - | - | - | - |
| 4 | - | - | - | - |
| 5 | - | - | - | - |
| 6 | - | - | - | - |
| 7 | - | - | - | - |
| 8 | - | - | - | - |
| 9 | - | - | - | - |
| 10 | - | - | - | - |

(組入銘柄数: 0)

上位10銘柄合計 0.0%

(対純資産総額比率)

* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

ご注意いただきたい事項

▲ 投資リスクについて

この保険の据置（運用）期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡給付金額および解約払戻金額等が変動（増減）します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。保険会社の業務または財産の状況の変化により、年金額、死亡給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

▲ 諸費用について

| | |
|---------------------------------------|---|
| 契約初期費 | 一時払保険料に対して 5.0% を特別勘定繰入前に控除します。 |
| 保険関係費 | 特別勘定の資産総額に対して (年率0.75%+運用実績に応じた費用^(※))/365日 を毎日控除します。 ※ 運用実績に応じた費用: 運用実績を毎日判定し、運用実績が 年率1.5%を超過 した場合のみ、 超過分1%あたり0.1%(上限1.25%) を控除します。 |
| 移転費 | 積立金の移転が年間13回以上のとき、 移転一回につき1,000円 を、保険会社が移転を受け付けた日末に積立金から控除します。 |
| 年金管理費 | 年金支払開始日以後、支払年金額の 1% を年金支払日に控除します。 |
| 資産運用関係費 | 日本株インデックス型(GW) 年率0.432%程度 |
| | 日本株アクティブ型(GW) 年率0.9504%程度 |
| | 海外株式型(GW) 年率0.4104%程度 |
| | 新興成長国株式型(GW) 年率1.188%程度 |
| | 海外債券型(GW) 年率0.9396%程度 |
| | 日本債券型(GW) 年率0.2592%~0.378%程度 |
| | 海外リート型(GW) 年率0.432%程度 |
| マネープール型(GW) 年率0.00918%~0.54%程度 | |

資産運用関係費は将来変更されることがあります。その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

その他ご留意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新変額個人年金保険「ダイレクト年金 e-VA」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「ダイレクト年金 e-VA」には「特別勘定グループ(GW)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(GW)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(GW)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新変額個人年金保険(無配当)特別勘定グループ(GW)「ダイレクト年金 e-VA」は現在販売していません。